

優秀賞

「自信を持って」

信州豊南短期大学 1年 土屋 美珠樹

自分の自信のなさから大切な友人を傷つけてしまった。それが、私
が今まで生きてきた中で最大の後悔であり、失敗である。

私には親友と呼べるほど仲の良かった一人の女の子がいた。彼女とはなにかと気が合った。好きな本、好きな音楽、好きなアーティスト…。もちろん、意見が違うことも時にはあった。しかし、互いの意見を尊重し合える、そんな関係であった。そんな彼女が、ある日突然、私に問いかけた。「あなたにとって、私ってどんな存在？」そこで「親友だよ」と即答していれば失わずに済んだのかもしれない。しかし私は自信がなかった。自分は親友だと思っているけど彼女はそう思っていないかもしれない、そう、余計なことを考えすぎた。彼女の問いに私は答えることができなかった。そんな私を見て、「もっと自信持ってよ」と彼女は笑った。思い返せば、その笑顔はどこか泣いているようにも見えた。彼女が転校したと聞かされたのは、そんな会話の数日後。

私はきつと、彼女を傷つけた。自分に自信がないことで、困るのは自分だけだと思っていた。だから別にいいと思っていた。自分に自信がないせいで傷つく人がいるなんて、思ってもいなかった。あの時、自分にもっと自信があれば彼女を傷つけることはなかったはずだ。同じ失敗はもうしたくはない。自分に自信を持つために、それまでは苦手だった、自分の意見を積極的に発表するようになった。自分の意見を主張することは私にとってなかなか勇氣のいることで、上手くないないこともたくさんあった。その度に私は彼女を思い出す。そうして今日も私は努力を重ねる。同じ失敗を繰り返さないために。

彼女はいま、どこで何をしているのだろうか。もし彼女にもう一度会えた時には、今度こそ胸を張って親友だと言おう。